

令和5年度(2023度) 熊本県学力・学習状況調査 教科に関する調査の詳細

各学年・各教科の正答率

小学校		国語	算数
3年	目標値	67.6	68.4
	県平均正答率	67.3	74.0
	全国平均正答率	68.4	69.9
	全国平均正答率を100としたとき	98.4	105.8
	R4年度	97.4	103.3

小学校		国語	算数
4年	目標値	63.8	64.2
	県平均正答率	66.1	68.6
	全国平均正答率	64.2	64.8
	全国平均正答率を100としたとき	103.0	105.8
	R4年度	101.0	101.3

小学校		国語	算数
5年	目標値	68.3	60.6
	県平均正答率	75.3	63.3
	全国平均正答率	69.9	58.3
	全国平均正答率を100としたとき	107.8	108.6
	R4年度	105.1	107.2

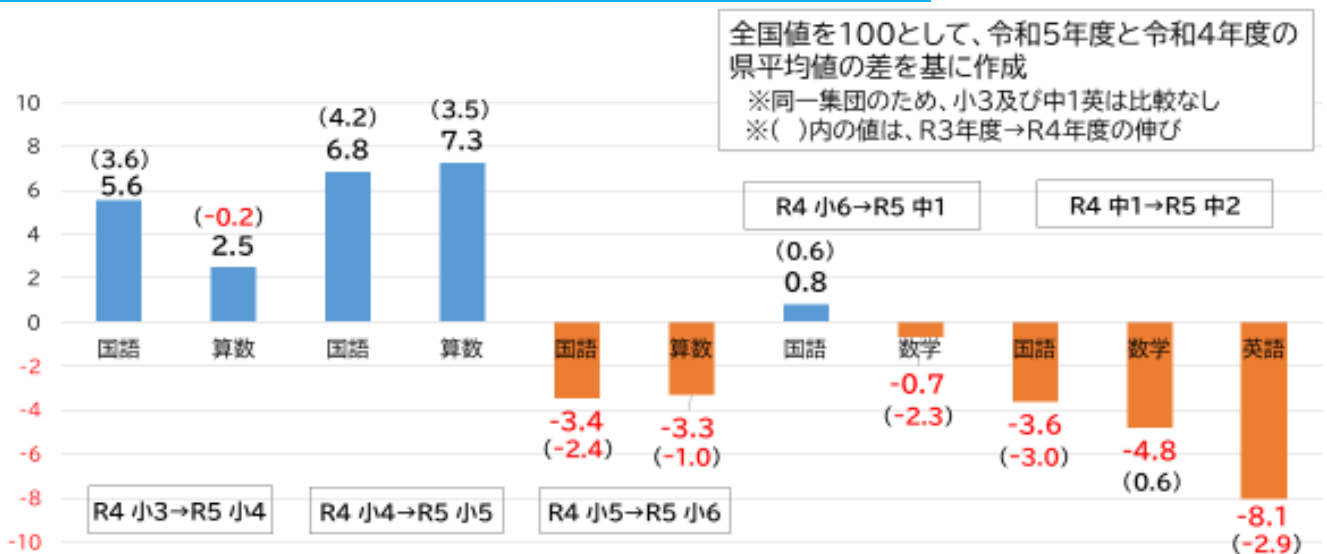
小学校		国語	算数
6年	目標値	64.0	71.1
	県平均正答率	67.7	76.7
	全国平均正答率	66.6	73.8
	全国平均正答率を100としたとき	101.7	104.0
	R4年度	99.2	103.9

中学校		国語	数学	英語
1年	目標値	57.3	56.4	54.4
	県平均正答率	62.0	55.4	51.4
	全国平均正答率	62.0	53.7	54.2
	全国平均正答率を100としたとき	100.0	103.2	94.7
	R4年度	103.7	103.9	100.6

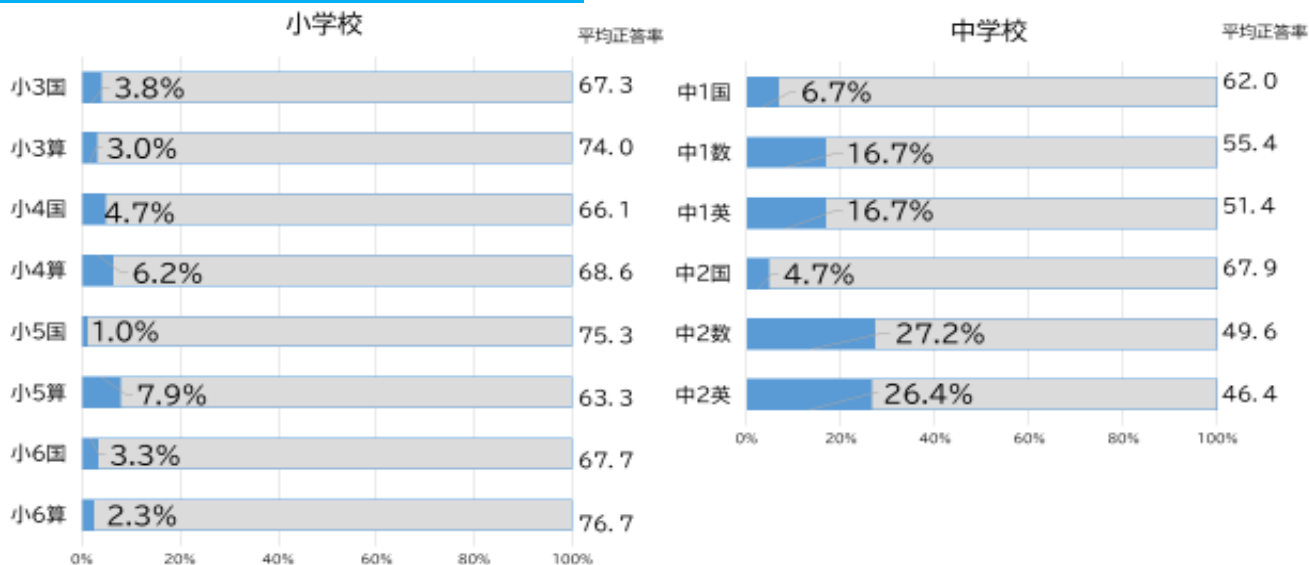
中学校		国語	数学	英語
2年	目標値	63.5	52.8	50.6
	県平均正答率	67.9	49.6	46.4
	全国平均正答率	67.8	50.1	50.1
	全国平均正答率を100としたとき	100.1	99.1	92.5
	R4年度	97.7	97.4	93.2

※ 数値は、小数第2位を四捨五入して示しています。
 ※ 全国平均正答率を100としたときの県及び全国正答率の数値は、
 小数第2位を四捨五入する前の数値で算出しています。

経年変化 (同一集団の伸び 令和4年度→令和5年度)



正答率3割未満の児童生徒の割合

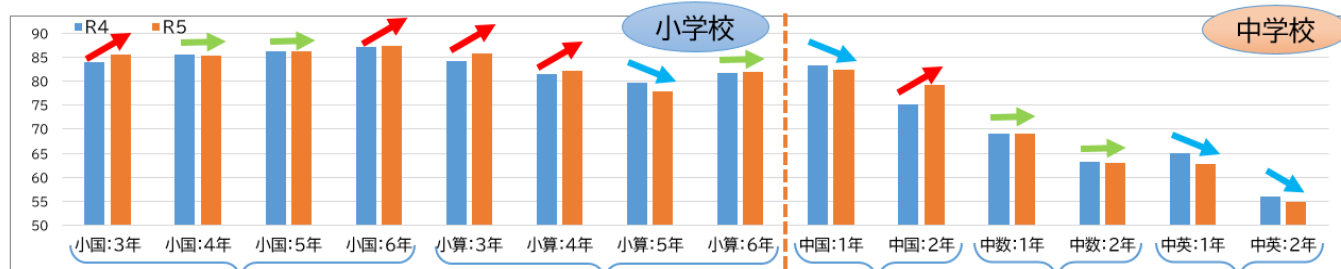


【参考】理解度と正答率の相関

各教科で内容の理解度の肯定的な割合が向上すると、教科の正答率も向上しており、理解度と正答率には相関が見られる。

授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」の割合



教科	国語 小3	国語 小4	国語 小5	国語 小6	算数 小3	算数 小4	算数 小5	算数 小6	国語 中1	国語 中2	数学 中1	数学 中2	英語 中1	英語 中2
R5	98.4	103.0	107.8	101.7	105.8	105.8	108.6	104.0	100.0	100.1	103.2	99.1	94.7	92.5
R4	97.4	101.0	105.1	99.2	103.3	102.3	107.2	103.9	103.7	97.7	103.9	97.4	100.6	93.2

各教科の正答率のR4からR5の伸び（：赤：向上、青：低下、±1.0は同程度）

成果と課題

成果

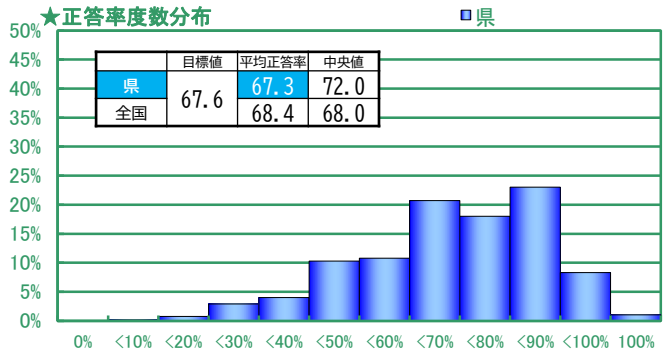
- 小学校では、全教科において正答率が向上しており、正答率3割未満の児童も少ない。
- 各種学力調査等の結果を校内研修等で活用し、授業改善に役立てている学校が増えている。

課題

- △中学校において、生徒の正答率3割未満の割合が高い。（特に数学、英語）
- ⇒ **理解度の向上へ向けた取組の充実を**

小学校第3学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	67.3	68.4
	基礎	74.2	75.8
	活用	52.7	52.8
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	77.5
	情報の扱い方に関する事項	47.3	49.0
	話すこと・聞くこと	55.9	56.9
	書くこと	67.9	62.2
	読むこと	60.6	63.9
観点	知識・技能	69.0	70.9
	思考・判断・表現	61.0	61.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.7	54.5
解答形式	選択	69.2	70.9
	短答	71.6	75.8
	記述	58.5	55.0



成果が見られた問題

7 正答率 67.9% (全国値 62.2%) (注意する点①～④の平均値)
指定された長さで、段落の役割について理解し、内容の中心を明確にし、自分の考えを書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 80.5% (全国値 85.0%) (2(1)(2)6問の平均値)
漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 5 (1) 正答率 35.9% (全国値 38.9%)
叙述を基に文章の内容を捉えている。

小学校第3学年 国語

継続して課題となった問題

●5(1) (本県 35.9%)

・説明文の内容を読み取る際に、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」を選択 (県 6.9%)	・「2」を選択 (県 35.9%)
・「3」を選択 (県 50.8%)	
・「4」を選択 (県 5.6%)	
・それ以外の誤答 (県 0.1%)	
【無答率】(県 0.7%)	

誤答例から考えられる授業での子供の姿

段落相互の内容のつながりに着目しないまま、前後の文だけで文の意味を考えようとしている。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R4県学調:小学3年5(1)

～こんな子供の姿へ～

段落相互の関係に着目して、筆者の考えとそれを支える理由や事例を整理しながら説明文を読む子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 説明的な文章を扱う単元(3・4年C読むこと(1)ア)
〈光村図書3年上:文様 こまを楽しむ(5月)〉
〈東京書籍3年上:自然のかくし絵(4～5月)〉
〈東京書籍2年下:あなのやくわり(1月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・問いや答えを見つける技能(文末表現や接続詞等)の指導に留まり、段落相互の関係から分かる内容のつながりを考える場面が少ない授業
- ・主語や述語などの取り上げ指導が少ない授業

☆こんな授業へ

- 筆者の考えが文章の中で読者にどのように投げかけられ、説明されているのかを整理した上で、感想を伝え合う授業
- 主語や述語など文の構成要素について、説明文の内容理解と関係付けながら確認している授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)光村3上「こまを楽しむ」において、段落相互の関係を考えながら、内容のつながりを考える。

T:この説明文の「問い」は何でしょう？

C:二つあって、…。

T:何を手がかりに見つけましたか？

C:文の最後の「～でしょう(か)。」を手がかりにしました。

T:では、まとめはどこに書かれていますか？

C:8段落です。「このように」という言葉があるからです。

T:「このように」は、まとめるときに使われるつなぎ言葉でしたね。それでは、「このように」は、どこからどこまでをまとめているですか。(※知識・技能から内容のつながりに視点を変える。)

C:「さまざまなしゅるいのこま」と書いてあるから、…

C:色がわりごまとか鳴りごまとかあったね。

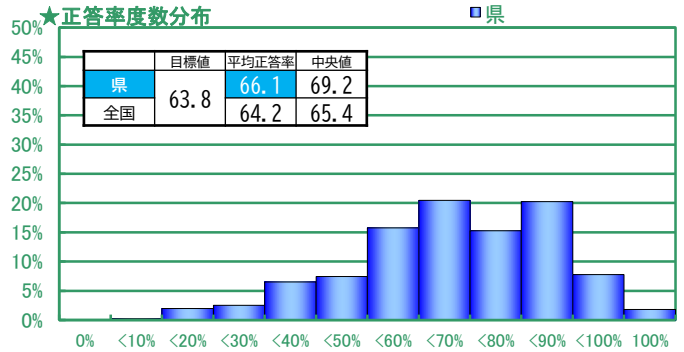


★教師と児童の一問一答とならないように、少人数で学び合う時間を設定しましょう。

※東書3上「自然のかくし絵」でも、「このように」の部分で同様の発問ができます。

小学校第4学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	66.1	64.2
	基礎	70.7	68.7
	活用	57.5	55.8
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.6	73.0
	情報の扱い方に関する事項	41.4	41.4
	我が国の言語文化に関する事項	87.0	90.8
	話すこと・聞くこと	53.7	52.7
	書くこと	61.3	46.5
	読むこと	61.3	63.1
観点	知識・技能	68.4	67.5
	思考・判断・表現	58.8	55.2
	主体的に学習に取り組む態度	53.2	44.6
解答形式	選択	71.5	70.2
	短答	66.5	70.2
	記述	54.1	44.4



成果が見られた問題

7 正答率 61.3% (全国値 46.5%) (注意する点①～④の平均値) 指定された長さで、段落の役割について理解し、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 72.2% (全国値 76.4%) (2(1)(2)6問の平均値) 漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 4 (3) 正答率 65.7% (全国値 71.4%) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。
- 5 (3) 正答率 32.3% (全国値 33.3%) 情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している。

小学校第4学年 国語

継続して課題となった問題

●5(3) (本県 32.3%)

・説明文の内容を読み取る際に、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約すること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。各学校で問題を御確認ください。

【正答】
・完答(県 32.3%)

【誤答】
・「ア」(手がかり)のみ正しい(県 3.7%)
・「イ」(体内時計)のみ正しい(県 36.2%)
・それ以外の誤答(県 19.7%)
【無答率】(県 8.1%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

要約する際に、繰り返し出てくる言葉には着目できるが、文章のまとまりの中心となる語を見付けるには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4県学調:小学4年5(3)
- ・R3県学調:小学4年5(3)

～こんな子供の姿へ～

内容の中心となる語や文を選んで、要約することができる子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 情報の扱い方に関する事項を扱う単元(3・4年知技(2)ア)
- 説明的な文章を扱う単元(3・4年C読むこと(1)ウ)
〈光村図書4年上:[じょうほう]要約するとき(6月)〉
〈光村図書4年下:未来につなぐ工芸品(11月)〉
〈東京書籍3年下:せっちゃくざいの今と昔(10月)〉
〈東京書籍4年下:くらしの中の和と洋(10月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・要約に必要な内容の中心となる語や文を教師が示してしまう授業

☆こんな授業へ

○誰に、何のために伝える要約なのかを意識し、そのために必要な語や文を児童自身で選び出す授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)東京書籍4年「くらしの中の和と洋」において、「自分だったら和室か洋室かどちらがよいか」についての意見交流に向けて、教材文にある和室と洋室を比較し、要約する。

★説明文においては、段落相互の関係を捉えることが前提となります。その上で、以下のような要約につなげることで、内容理解と精査が進みます。

T:和室と洋室は、同じ観点で比べた方がいいですね。教材文では、何を比べてあるでしょうか。

教材文から、ここに入る言葉を見つけて10字以内で書きましょう。



		観点
		和室の
		洋室の

C1:「まず」「次に」と2つの事例があったから、1つ目は「まず」から始まる4～10段落の観点だと思う。

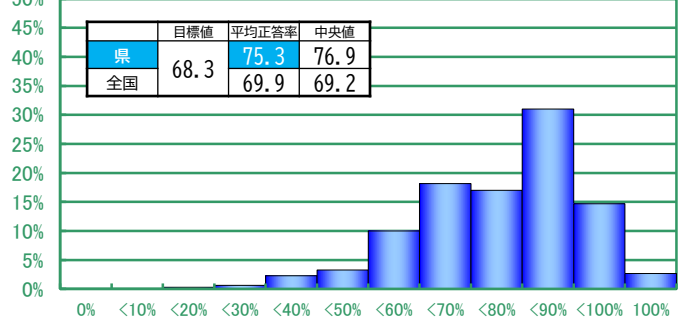
C2:「和室、洋室での過ごし方」だと10字をこえてしまうよ。

C3:「過ごし方」を比べてあるから、...

小学校第5学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	75.3	69.9
	基礎	79.6	75.2
	活用	65.6	57.7
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.9	75.0
	情報の扱い方に関する事項	43.1	37.2
	我が国の言語文化に関する事項	56.2	50.7
	話すこと・聞くこと	71.7	69.6
	書くこと	77.8	64.1
	読むこと	68.1	67.5
観点	知識・技能	73.8	67.9
	思考・判断・表現	72.7	66.6
	主体的に学習に取り組む態度	72.1	59.6
解答形式	選択	75.2	72.5
	短答	76.9	73.7
	記述	73.3	59.5

★正答率度数分布



成果が見られた問題

- 7 正答率 84.8% (全国値 67.1%) (注意する点①～④の平均値) 指定された長さで、段落の役割について理解し、自分の意見やそれを支える理由を明確にして書いている。
- 3 (2) 正答率 44.0% (全国値 25.0%) 連用修飾語について理解している。

課題が見られた問題

- 4 (1) 正答率 79.4% (全国値 83.2%) 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

小学校第5学年 国語

継続して課題となった問題

●4(1) (本県 79.4%)

- ・物語の内容を読み取る際に、登場人物の心情について、描写を基に捉えることに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」を選択 (県 11.3%)	・「4」を選択 (県 79.4%)
・「2」を選択 (県 4.3%)	
・「3」を選択 (県 5.0%)	
【無答率】 (県 0.0%)	

誤答例から考えられる授業での子供の姿

登場人物の心情が表れている直接的な表現にのみ着目し、暗示的な表現から心情を捉えるまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4県学調:小学5年4(2)
- ・R元県学調:小学5年4(3)

～こんな子供の姿へ～

登場人物の心情が暗示的に表現されている文章にも着目して心情を捉えることのできる子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(5・6年C読むこと(1)イ) (光村図書5年:銀色の裏地(4月)) (東京書籍5年:おにぎり石の伝説(4月))

◆誤答から考えられる授業

- ・言葉に着目しているものの、それを登場人物の心情と結びつけて捉える時間が十分設定されていない授業
- ・文章全体の中でのその場面の意味を考えるとなく、場面ごとに登場人物の心情を問う授業

☆こんな授業へ

- 登場人物の心情に関わる表現を見つけ、児童自身の経験、知識を踏まえた解釈を交流しながら、心情や心情の変化への理解を深める授業

【例えば、こんな授業場面において】

例1)光村図書5年「銀色の裏地」において、他の登場人物に対する「理緒」の心情の変化について考える。

T:最後の文に「はずむような声が出ていた」とあるから、「理緒」はうれしそうですね。では、物語の最初から理緒はうれしい気持ちだったのでしょうか?(※心情の変化が分かる部分に着目するための問い)

C:最初に「不満をぶちまけた。」とあるから……。

★文章全体を通して読むことが大切ですので、必ずしも文章の初めから順に読み取る必要はありません。



例2)東京書籍5年「おにぎり石の伝説」において、「おにぎり石」に対する「真」の心情の変化について考える。

T:「真」の「おにぎり石」に対する心情の変化を読み取るために、みんなで考えたい文はありますか。

C1:「ぼくらはうっかりむねをおどらせた。」ところの気持ちを考えたいです。

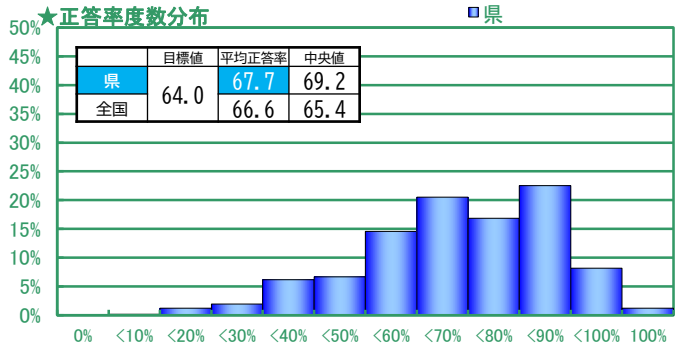
T:そこから「真」の気持ちが分かりますか。(※言葉に着目する)

C1:「むねをおどらせた」ということは、わくわくしたということだと思います。でも、「うっかり」という言葉がついているから、よく分からなくて。

C2:「うっかり」って、思ってもみなかったときに使うから……。

小学校第6学年・国語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	67.7	66.6
	基礎	66.8	66.2
	活用	69.3	67.3
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.0	62.9
	情報の扱い方に関する事項	56.7	55.3
	我が国の言語文化に関する事項	75.7	73.1
	話すこと・聞くこと	73.7	75.3
	書くこと	74.2	67.6
	読むこと	65.8	67.6
観点	知識・技能	63.8	62.5
	思考・判断・表現	70.8	69.1
	主体的に学習に取り組む態度	67.4	61.9
解答形式	選択	70.8	71.1
	短答	61.5	62.2
	記述	69.7	63.4



成果が見られた問題

7 正答率 78.3% (全国値 69.1%) (注意する点①～④の平均値)
指定された長さで、段落の役割について理解し、自分の意見とその理由、予想される反論とそれに対する意見を書いている。

課題が見られた問題

- (2) 正答率 79.1% (全国値 83.6%)
意図に応じて、質問を工夫している。
- (1) 正答率 79.3% (全国値 85.7%) (2(1)3問の平均値)
第6学年に担当されている漢字を正しく読んでいる。

小学校第6学年 国語

継続して課題となった問題

●1(2) (本県 79.1%)

・インタビューの内容を聞き取り、意図に応じて、質問を工夫すること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」を選択(県 3.9%)	・「2」を選択(県 79.1%)
・「3」を選択(県 3.5%)	
・「4」を選択(県 13.5%)	
【無答率】(県 0.1%)	

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

「話すこと」や「聞くこと」の授業において、話を聞いて内容を捉えることはできているが、質問者の話し方の工夫を捉えるまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R5全学調:小学6年3(1)(2)
- ・R4県学調:小学6年1(2)

～こんな子供の姿へ～

話し手の目的に応じて、話し手がどのような話し方の工夫をしているか捉えられる子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 聞くことを扱う単元(5・6年A話すこと・聞くこと(1)エ)
〈光村図書6年:聞いて、考えを深めよう(4～5月)〉
〈東京書籍5年:知りたいことを聞き出そう(4月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・インタビューをする授業において、質問者役と回答者役を形式的に経験することに留まった授業

☆こんな授業へ

- インタビューをする時に、回答者から思いや考えをくわしく引き出すための方法を見つける授業
- インタビューの様子を見て、質問者の話し方の工夫やよさを伝え合う授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)よりよいインタビューの仕方について考える場面において、実際のインタビューを見て、「質問しながら聞く」時のポイントを話し合う。(※インタビューし合うだけの授業に終わらない。)

T:インタビューをした〇〇さんのよかったところを話し合しましょう。考えや気付きはノートに書き留めておきましょう。

(※インタビューを見る。)

- C1:インタビューする目的を相手にきちんと伝えていたね。そうすると、相手が目的に合った答えを言ってくれそうだね。
- C2:〇〇さんは、「～ということで、合っていますか。」と相手の話を確かめていたことがいいと思ったよ。
- C3:それに、「・・・についてくわしく教えてください。」ということも言っていたね。もっと具体的なことを知るために聞いたのかな。

【ノート】

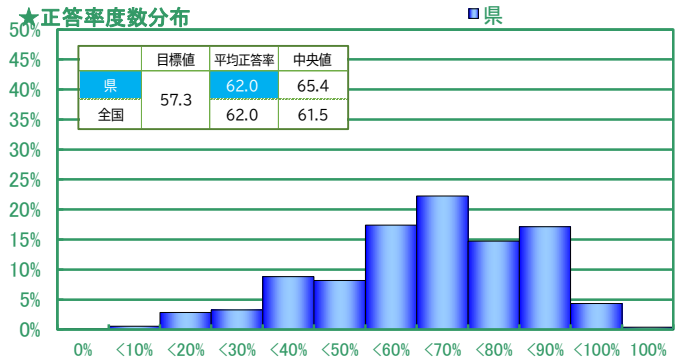
質問するとき、自分の理解が正しいかどうかを確かめる。例)話の内容をより具体的に知る。くわしく教えてください。のようなのですか。

★インタビューを経験するだけでなく、インタビューを客観的に見て、工夫している部分を見つけることで、児童は、自分が話すときに話し方を工夫するようになります。

★教科書の二次元コードを活用してインタビュー動画や音声を聞き、その工夫を見付ける活動も効果的です。

中学校第1学年・国語科の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	62.0	62.0
	基礎	62.8	62.9
	活用	60.5	60.2
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	58.9	59.7
	情報の扱い方に関する事項	40.5	40.1
	我が国の言語文化に関する事項	28.6	25.4
	話すこと・聞くこと	85.8	87.7
	書くこと	60.3	57.8
	読むこと	62.4	63.6
観点	知識・技能	53.3	53.6
	思考・判断・表現	65.9	65.6
	主体的に学習に取り組む態度	62.4	60.0
解答形式	選択	68.2	69.6
	短答	54.9	55.3
	記述	63.5	60.5



成果が見られた問題

7 正答率 65.4%（全国値 61.2%）〈正答条件の平均値〉
資料から読み取った内容や自分の考えを明確にして、指定された条件で文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 60.9%（全国値 63.4%）〈6問の平均値〉
漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 4 (2) 正答率 43.8%（全国値 45.2%）
情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。
- 5 (3) 正答率 65.1%（全国値 67.6%）
表現の効果について、根拠を明確にして考えている。

中学校第1学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(3)（本県 65.1%）
・文学的な文章において、表現の効果について根拠を明確にして考えること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」……を選択（県 7.4%）	・「3」……を選択（県 65.1%）
・「2」……を選択（県 9.2%）	
・「4」……を選択（県 17.4%）	
【無答率】（県 0.9%）	

誤答例から考えられる授業での子供の姿

文章を解釈する際に、場面の展開や人物相互の関係などに着目せず、部分的な叙述や描写のみを捉えて読み取っている。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3 県学調：中学1年 5(1)(2)(3)
- ・R4 県学調：中学1年 5(1)(2)(3)

～こんな子供の姿～
場面の展開や構成、人物相互の関係等に着目しながら、叙述や描写を基に文章を解釈する生徒

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等（指導事項）

- 文学的な文章を扱う単元（1年C読むこと(1)イ、エ）
〈光村図書1年：「シンジュン」(4月)、「大人になれなかった弟たちに…」(9月)「星の花が降るころに」(9月)、「少年の日の思い出」(1月)〉
〈東京書籍1年：「飛べ かもめ」(5月)、「さんちき」(5月)「少年の日の思い出」(11月)〉

◆誤答から考えられる授業

・人物の心情の変化を捉えるに当たり、場面の展開や人物相互の関係、暗示されている表現などに生徒が着目するまでには至っていない授業

☆こんな授業へ

○場面の展開や人物相互の関係を捉えるための学習課題を設定することで、文章全体を読みながら課題を解決していく授業

【例えば、こんな授業場面において】例「少年の日の思い出」

みなさんの感想の中に、「なぜ『僕』は大切にしていたチョウを粉々に押し潰したのか」というものがありました。みなさんは、なぜだと思いますか。

エーメールのクジャクヤママユを壊したからじゃないかな。

わざとじゃないことが伝わらなくて悔しかったのかもしれない。

結末のチョウを押しつぶした「僕」の心情を捉えるには、話がどのように展開されているのかを考えることが大切です。場面や描写を結び付けながら、理由を説明しましょう。

- (1)「結末」に至るまでの展開の中で、重要だと考える場面や描写を付箋に書き出す。(ICTを活用することも考えられる。)
- (2)グループで、付箋を時系列になるように整理する。
- (3)(2)で整理した付箋の中から、「結末」に至った理由を説明するために必要な場面や描写を選び、**場面に意味付けをする。**

「僕」は、闇の中でチョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰した。

（中略）

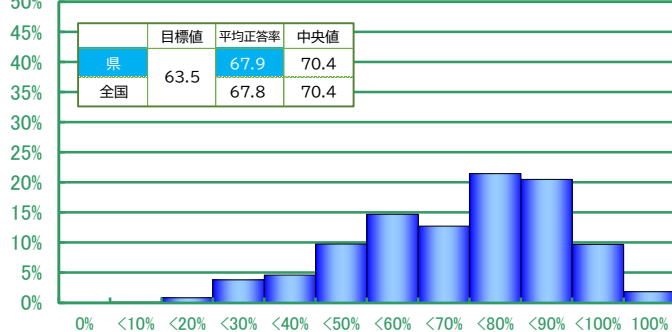
珍しい青いコムラサキを捕らえた
非の打ち所がないという悪徳、あらゆる点で模範少年
エーメールにコムラサキを見せたが難癖をつげられた
自分の獲物に対する喜びは
かなり傷つけられた
エーメールに傷つけられた僕

僕
チョウの収集に夢中な
微妙な喜びと、激しい欲望との入り混じった気持ち
朝早くから夜まで、食事に
なんかに帰らないで、
僕は全くこの遊戯のとりこになり、ひどく心を

中学校第2学年・国語科の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	67.9	67.8
	基礎	72.9	73.4
	活用	58.0	56.7
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.5	78.3
	情報の扱い方に関する事項	52.3	52.8
	我が国の言語文化に関する事項	66.1	66.3
	話すこと・聞くこと	72.1	73.0
	書くこと	56.8	53.4
	読むこと	66.9	69.0
観点	知識・技能	69.6	70.2
	思考・判断・表現	63.5	62.9
	主体的に学習に取り組む態度	54.5	50.6
解答形式	選択	70.9	71.9
	短答	71.6	73.0
	記述	56.3	51.9

★正答率度数分布



成果が見られた問題

7 正答率 57.9% (全国値 51.5%) (正答条件の平均値)
グラフから読み取った内容や自分の考えを明確にして、指定された条件で文章を書いている。

課題が見られた問題

- 2 正答率 78.3% (全国値 79.9%) (6問の平均値)
漢字を正しく読んだり書いたりしている。
- 4 (1) 正答率 54.4% (全国値 56.4%)
文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えている。
- 5 (2) 正答率 65.0% (全国値 69.1%)
文章の表現の効果について考えている。

中学校第2学年 国語

継続して課題となった問題

- 5(2) (本県 65.0%)
・文学的な文章において、文章の表現の効果について考えること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【誤答】	【正答】
・「1」……を選択(県 10.5%)	・「3」……を選択(県 65.0%)
・「2」……を選択(県 15.8%)	
・「4」……を選択(県 8.1%)	
【無答率】(県 0.6%)	

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

- ・表現の効果を考える際に、場面の展開、叙述や描写の仕方、比喩をはじめとした表現の技法などに着目していない。
- ・表現の技法の意味や用法などを理解できていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R4 県学調: 中学2年 6(1)(2)(3)
- ・R4 全学調: 中学校 3 一、三

～こんな子供の姿へ～

文学的文章を読む際に、場面の展開、叙述や描写の仕方、使われている表現技法などに着目して、表現の効果を考えながら内容を解釈できる生徒。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文学的な文章を扱う単元(2年C読むこと(1)エ)
(光村図書2年:「盆土産」(9月)、「走れメロス」(1月))
(東京書籍2年:「辞書に描かれたもの」(6月)「走れメロス」(12月))

◆誤答から考えられる授業

- ・文章を解釈する際に、表現の効果を考えるまでには至っていない授業

☆こんな授業へ

- 場面の展開、叙述や描写の仕方、比喩などの表現の技法が、文章全体にどのような効果を与えたり印象付けたりしているかを考える授業
- 第1学年の知識・技能(1)オ(表現の技法)と関連させることで、指導事項の定着を図る授業

【例えば、こんな授業場面において】 例「走れメロス」

みなさんの初発の感想に、「会話文が多い」というものがありました。会話文が多いと、どのような効果がありますか。

他にどのような特徴があり、どんな効果があるか考えましょう。また、表現技法についても気付いたものを出し合ひしましょう。

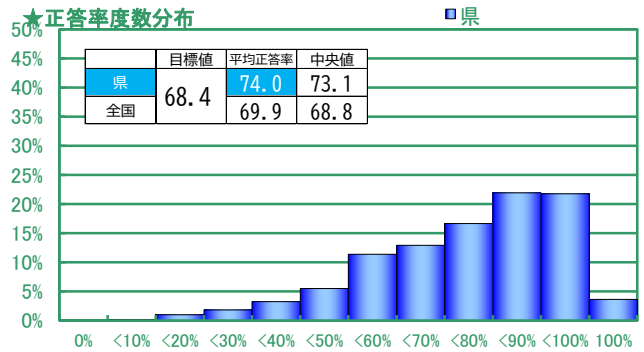
◆表現の特徴

- 会話文が多い
- ↓臨場感を与える効果
- 一文が短いものが多い
- ↓緊迫感を与える効果
- 「メロス」は激怒した。
- ↓情景描写が多用的な効果
- 「見よ、前方の川を。」
- ↓「メロス」は、メロスの叫びをせせら笑うがごとく……
- 「死んだように深く眠った」
- ↓「馬のように大きな胸震い……」
- 「一度だつて暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことは……」

- ・表現の特徴では、それぞれが与える効果を生徒自身の言葉でまとめていく。
- ・表現の技法では、生徒が迷ったものも意図的に取り上げたとで、それぞれの表現を比較しながら特徴を確認していく。

小学校第3学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	74.0	69.9
	基礎	81.7	78.5
	活用	62.8	57.5
領域	数と計算	73.2	69.5
	図形	70.1	65.8
	測定	78.6	73.7
観点	知識・技能	78.7	75.4
	思考・判断・表現	57.0	50.3
	主体的に学習に取り組む態度	63.3	56.4
解答形式	選択	78.5	75.5
	短答	74.2	69.6
	記述	36.2	28.6



成果が見られた問題

18(3) 正答率 52.8% (全国値 42.0%)
円の半径から、長方形のプレートの横の辺の長さを求めることができる。

課題が見られた問題

- 8(2) 正答率 61.9% (全国値 64.3%)
式から何を求める問題になるかを選ぶことができる。
- 13 正答率 73.9% (全国値 75.0%)
球の切り口が円になることを理解している。

小学校第3学年 算数

継続して課題となった問題

- 8(2)(本県 61.9%)
 - ・除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること
 - ・除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること
- に課題が見られます。
- ※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

- 【正答】
- ・「1」(1人分の本数)を選択(61.9%)
- 【誤答】
- ・「2」(鉛筆の本数)を選択(県 6.9%)
 - ・「3」(分けられる人数)を選択(県 26.5%)
 - ・「4」(残りの本数)を選択(県 3.7%)
- 【無答率】(県 0.9%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

- ・問題場面と式とを結び付けられず、言葉で表現できない。
- ・等分除と包含除との違いを正しく理解するまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H28県学調:小学3年2(2)
- ・H27県学調:小学3年4(2)(3)

～こんな子供の姿～

数量の関係に着目し、問題場面に適した図や四則の式に表している子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 除法(A(4)ア(イ))
〈東京書籍3年上:同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう(5月)〉
〈啓林館3年上:わり算(4月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・子供一人一人に、場面を図に表したり、操作したりする時間が十分に保障されていない授業
- ・単元後半において、計算技能の習得に重きを置き、式の意味理解の振り返りが少ない授業

☆こんな授業へ

- 言葉による表現、図を用いた表現、具体物を用いた操作を式と関連付けながら、式の意味を理解する授業
- 計算で行われていることを図に表したり操作したりすることで、等分除と包含除の違いを明確にする授業

【例えば、こんな授業場面において】

例1)わり算になる問題づくりを行い、図や操作で式や商が正しいか確認する。

- T:12÷4になる問題づくりをしましょう。
C:クッキーが12まいあります。3人で同じ数ずつ分けると、1人分は何まいになりますか。という問題をつくりました。
C:クッキーが12まいあります。1人に3まいずつ分けると、何人に分けられますか。という問題をつくりました。
T:2人の考えを図やおはじきで表してみましょう。

例2)2種類のわり算について図や操作での表現をもとに、式や商の意味を問う。

- T:(例1をもとにして)12÷4の問題が2つ出てきましたね。
C:同じ式なのに、図を見ると2つの式でやってることは違うね。
T:2つの問題の違いのところは何ですか。
C:上の式は、1人分を求める問題で、下の式は何人に分けられるかを求める問題です。
C:同じ式だけど、図に表すと違いが分かりやすくなるね。

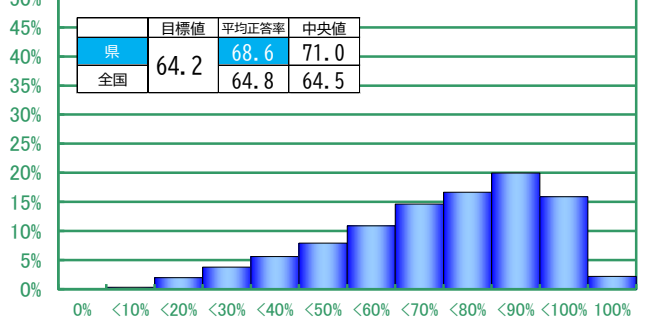
わり算の問題場面や求め方を図や操作で表現することで、児童は式や商の意味を考えることができ、等分除や包含除の理解につながります。



小学校第4学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	68.6	64.8
	基礎	73.2	69.6
	活用	61.4	57.3
領域	数と計算	71.7	68.0
	図形	68.3	62.9
	変化と関係	76.4	75.8
	データの活用	47.0	45.4
観点	知識・技能	73.9	70.3
	思考・判断・表現	57.6	53.3
	主体的に学習に取り組む態度	50.6	45.5
解答形式	選択	71.9	68.1
	短答	70.5	67.1
	記述	31.4	25.3

★正答率度数分布



成果が見られた問題

5 正答率 60.5% (全国値 49.6%)
 除法の筆算に出てくる数の意味を理解している。

課題が見られた問題

8(1) 正答率 82.1% (全国値 85.3%)
 基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。

10(1) 正答率 70.3% (全国値 72.6%)
 計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。

小学校第4学年 算数

継続して課題となった問題

- 10(1)(本県 70.3%)
 - ・四則の混合した式や()を用いた式について理解すること
 - ・問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること
- に課題が見られます。
 ※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

- 【正答】
 ・「3」 $((600-70) \times 3)$ を選択(県70.3%)
- 【誤答】
 ・「1」 $((600+70) \times 3)$ を選択(県 12.7%)
 ・「2」 $(600-70 \times 3)$ を選択(県 7.1%)
 ・「4」 $(600+70 \times 3)$ を選択(県 8.9%)
- 【無答率】(県 1.0%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

()を用いた式について、問題場面と式とを結び付けられず、式を言葉で表現できない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H28県学調:小学4年5(2)
- ・H26県学調:小学4年6

～こんな子供の姿へ～

数量の関係に着目し、問題場面に適した図や四則の式に表している子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 数量の関係を表す式(A(6)イ(ア))
〈東京書籍4年下:計算のやくそくを調べよう(10月)〉
〈啓林館4年上:式と計算の順じょ(9月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・計算のきまり等の計算技能の習得に重きが置かれている授業
- ・問題場面を式に表したり、式から具体的な場面を考えたりする活動が不十分な授業

☆こんな授業へ

- 具体的な場面に照らして、()を使って一つの式に表す授業
- 式は、状況や思考の道筋を表現する手段であることを意識し、問題場面と式とを往還させる授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) ()がある場合と()がない場合において、問題場面と式とを関連付けながら式の意味を確認する。

- ㊦:1本50円のえんぴつを4本買って、80円のプレゼント用のふくろに入れます。代金はいくらになりますか。
- ㊧:1本50円のえんぴつと、1こ80円の消しゴムを1セットとして、4セット買います。代金はいくらになりますか。
- ㊨:1本50円のえんぴつ1本と、1こ80円の消しゴムを4こ買います。代金はいくらになりますか。

T:答えを求める式が、 $(50+80) \times 4$ になる式と、 $50+80 \times 4$ になる式は、それぞれどれですか。

C: $(50+80) \times 4$ が㊦で、 $50+80 \times 4$ が㊨だと思います。

T:どうして、そう思うのですか。

C:㊦は えんぴつと消しゴムをセットにするから()が必要です。

C:㊨は80円の消しゴムを4こ買うから 80×4 で計算します。

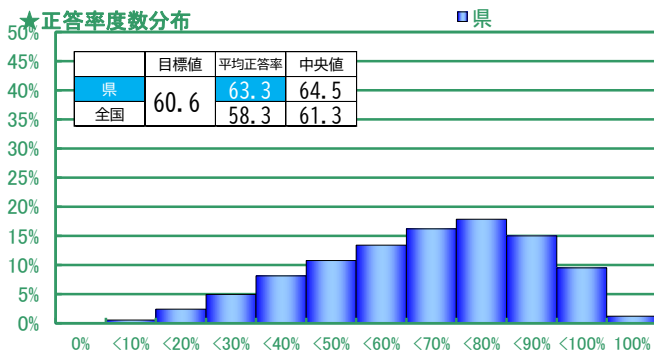
C:式は似ているけど、意味も答えも違うんだね。

理由を問うことで、児童は式の意味を考えることになり、問題場面と式とを結び付けるようになります。



小学校第5学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	63.3	58.3
	基礎	70.3	66.4
	活用	45.9	38.5
領域	数と計算	65.8	62.6
	図形	71.7	65.7
	変化と関係	46.8	39.1
	データの活用	46.5	35.3
観点	知識・技能	71.8	66.3
	思考・判断・表現	47.8	43.6
	主体的に学習に取り組む態度	47.2	37.3
解答形式	選択	64.9	61.4
	短答	67.1	61.0
	記述	23.9	15.7



成果が見られた問題

5 正答率 68.5% (全国値 51.3%)
 小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。

課題が見られた問題

2(2) 正答率 72.3% (全国値 73.4%)
 整数÷整数の商を分数で表すことができる。

15(1) 正答率 23.0% (全国値 15.3%)
 1人あたりのたたみの数やたたみ1枚あたりの人数を求めて、どちらの部屋がこんでいるかを説明している。

小学校第5学年 算数

継続して課題となった問題

- 15(1)(本県 23.0%)
 - ・単位量当たりの大きさの意味について理解し、それを求めること
 - ・異種の二つの数量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察すること

に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

【正答例】

・Aは $10 \div 8 = 1.25$ 、Bは $16 \div 10 = 1.6$ 数が小さいほうがこんでいるからA

【誤答】

- ・1人あたりのたたみの数を求めているが、出てきた数値の判断を間違えている(県 6.6%)
- ・たたみ1枚あたりの人数を求めているが、出てきた数値の判断を間違えている(県 1.2%)
- ・考え方と式が一致していない(県 10.8%)
- ・上記以外の誤答(県 51.8%)

【無答率】(県 6.5%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

A÷Bで求める式や商の意味理解（単位量当たりの大きさの意味）が不十分であるため、比べる方法を説明するまでには至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3全学調:小学6年1(3)
- ・H30全学調:小学6年A4(1)(2)

～こんな子供の姿へ～

単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○簡単な場合についての割合(C(2)イ(ア))

〈東京書籍5年下:比べ方を考えよう(1)(11月)〉

〈啓林館5年:単位量あたりの大きさ(11月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・「どちらか一方に揃えると、もう一方の数値で比べられる」というよさに気付かせられていない授業
- ・「〇〇あたりの数を求めたい」という子供の目的意識がないまま、除法を用いて計算を行っている授業

☆こんな授業へ

- 一方を揃えれば比較ができることを確認し、除法を行う意味を明らかにした上で立式、計算を行う授業
- 問題場面や数量の関係を明らかにし、単位量あたりの大きさを求める授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)どのような時に比べられて、どのような時に比べられないかを明らかにし、解決の見通しをもたせる。

T:どのうさぎ小屋が一番こんでいますか。

C:AとBを比べると、Aがこんでいて、BとCを比べるとCがこんでます。

C:同じ広さだったら、うさぎの数が多い方がこんでいて、同じうさぎの数だったら、面積がせまい方がこんでいると言えます。

C:でもAとCは面積もうさぎの数も違うので、比べられません。

C:いや、どちらかの数を揃えられたら比べられると思います。

T:揃えるってどういうことですか？

C:面積を揃えるか、うさぎの数を揃えるかということです。

C:1㎡に何ひきうさぎがいるかを調べるといいです。

C:1匹あたりの面積でもいいと思います。

T:どちらでも分かるということですね。それでは、1㎡あたりのうさぎの数を求めるのか、1匹あたりの面積を求めるのかを決めて、式を立てましょう。

	面積 (㎡)	うさぎ (ひき)
A	5	8
B	5	6
C	4	6

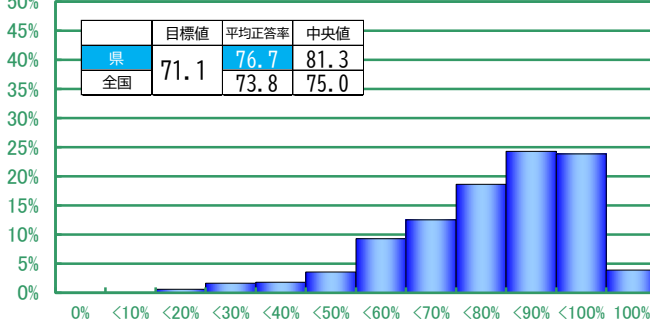
求めたいことを考えた上で立式することで、商の考察までの流れがスムーズになります。



小学校第6学年・算数の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	76.7	73.8
	基礎	81.2	79.2
	活用	66.9	61.9
領域	数と計算	77.2	73.8
	図形	80.0	77.2
	変化と関係	65.4	64.4
観点	知識・技能	82.9	80.1
	思考・判断・表現	60.9	57.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.7	61.5
解答形式	選択	75.0	70.9
	短答	84.0	82.2
	記述	35.4	32.3

★正答率度数分布



成果が見られた問題

2 正答率 65.5% (全国値 55.2%)
 分数の乗数、除数の大きさから、積、商と被乗数、被除数の大小を判断することができる。

課題が見られた問題

3(6) 正答率 83.5% (全国値 87.4%)
 真分数÷真分数×仮分数の計算ができる。

13(4) 正答率 42.1% (全国値 41.1%)
 比を使って、一方の量から全体の量を求めている。

小学校第6学年 算数

継続して課題となった問題

- 13(4)(本県 42.1%)
 - ・比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること
 - ・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことに課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
 各学校で問題を御確認ください。

【考えられる誤答】

- ・牛乳やミルクティーの量を180mLとみている
- ・無解答

誤答例から考えられる授業での子供の姿

比を用いる場面において、一方の量と全体の量との区別がついていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H27全学調: 中学3年A1(1)
- ・H24全学調: 中学3年A3(1)

～こんな子供の姿へ～

比の意味や表し方を理解し、図や式などを用いて数量の関係を比で比べている子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○比(C(2)イ(ア))

〈東京書籍6年: 割合の表し方を調べよう(7月)〉

〈啓林館6年: 比とその利用(10月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ・計算技能の習得に重きを置き、図を用いた比の意味理解が十分に行われていない授業
- ・数値のみの処理になってしまい、日常の事象と関連付けられていない授業

☆こんな授業へ

- 関係を図や式などを用いて表したり、それらを読み取ったりする授業
- 日常生活において、比によって数量の関係を表現している事象を取り上げ、比に親しむ授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) 場面を図に整理し、図や式などを用いて数量の関係を調べる。
 問: コーヒーと牛乳の量の比を3:4にして、コーヒー牛乳を作ります。コーヒーを120mL使うとすると、何mLのコーヒー牛乳ができますか。

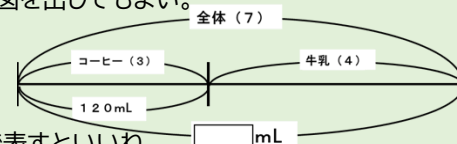
T: 問題場面を図に表してから問題に答えましょう。
 ※比の学習で線分図を扱う時間は限られているため、教師から積極的に線分図を出してもよい。

C: 図に表すと、全体が7にあたるのが分かるね。

C: 求めたいのは全体の量だから口で表すといいね。 mL

C: コーヒーの量と全体の量を比で表すと3:7です。実際の量の比で考えると、 $3:7=120:X$ と表せるね。あとは計算すれば答えが出てきます。

T: 今の考え方について、この線分図を使いながらペアで互いに説明しましょう。

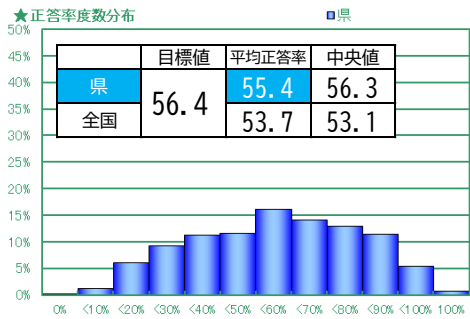


線分図をかかせるだけでなく、図を使った説明を促すことで、数量の関係がより明らかになります。



中学校第1学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	55.4	53.7
	基礎	61.1	59.1
	活用	38.5	37.3
領域	数と計算	55.7	52.9
	図形	73.1	69.1
	関数	49.8	48.5
観点	知識・技能	60.7	58.6
	思考・判断・表現	42.3	41.0
	主体的に学習に取り組む態度	44.8	44.1
解答形式	選択	61.2	60.3
	短答	53.9	50.8
	記述	21.1	20.5



成果が見られた問題

- 3 正答率 61.5% (全国値 53.8%)
素因数分解について理解している。
- 4 (4) 正答率 46.1% (全国値 38.3%)
1次式の減法ができる。

課題が見られた問題

- 5 (2) 正答率 67.4% (全国値 69.4%)
数量の関係を不等式で表すことができる。
- 17 (2) 正答率 10.0% (全国値 12.4%)
事象を数学的に解釈し、合計の個数の、1個の重さの違いによる差を数学的に説明することができる。

中学校第1学年 数学

継続して課題となった問題

- 17(2) (本県 10.0%)
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答例】
 $x = 15000$ のときの、1個の重さを $2g$ としたときのグラフの y の値から、1個の重さを $3g$ としたときのグラフの y の値の差を求めればよい。

【誤答】
・正答以外の解答 (県 40.9%)

【無答率】(県 49.1%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

- ・長い問題文に対して、問題解決の意欲がなかったり、題意を把握したりすることができていない。
- ・グラフ上の点の x 座標、 y 座標が表す数量を読みとり、数学的に説明するまでには至っていない。

改善状況の確認

- ◆関連する類似問題での確認
・R4全学調:中学校3年8(2)
・R4県学調:中学校2年17(2)

～こんな子供の姿へ～

題意を把握した上で、表、式、グラフ等をどう用いて問題を解決したか数学的に説明しようとする子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 比例、反比例(C(1)イ(ア)(イ))
〈東京書籍1年:比例と反比例(10月)〉
〈啓林館1年:変化と対応(10月)〉
〈大日本図書1年:量の変化と比例、反比例(10月)〉

◆誤答から考えられる授業

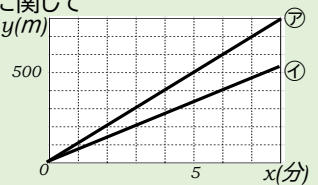
- ①題意の把握ができていないまま、子供が問題解決に向かう授業
- ②グラフ上の点具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動が十分ではない授業
- ③解決の過程を振り返り、表現を洗練する活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 題意を丁寧に確認し、スモールステップで問題解決に向かう授業
- 具体的な場面において、表、式、グラフなどをどう用いたかについて数学的に説明する活動を取り入れた授業

【例えば、こんな授業場面において】

例)◆誤答から考えられる授業①②に関して
→右図のような比例のグラフを用いて問題を解決する場面において、スモールステップで子供の状況を確認しながら問題解決に向かう。



(子供が問題解決に向かう前に)

T:この問題はどんなことを聞いているのかな?

(※ 題意を把握できているか確認する)

C1:え、何だっけ?

C2:6分後には②と①が何m離れているかを聞いているよね。

C1:そういうことか!でも、このグラフから分かるのかな?

C3:時間が6分の時のグラフ上の点から分かるんじゃないかな。

C4:このグラフだとどこの点になるのかな?

T:何m離れたのかを求めるには、グラフのどこを見るとよいのかグラフ上に書き入れて確認してみましょう。

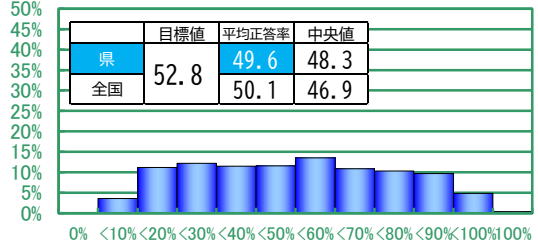
★例えば、求めたい数量を示す部分をグラフ上に書き入れる等すると、子供が求めたい数量を視覚的に確認した上で、問題解決に向かうことにつながります。



中学校第2学年・数学の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	49.6	50.1
	基礎	55.9	55.4
	活用	31.9	34.1
領域	数と計算	48.2	46.9
	図形	62.1	64.4
	関数	46.8	46.7
観点	知識・技能	56.6	55.6
	思考・判断・表現	34.6	37.9
	主体的に学習に取り組む態度	31.9	34.1
解答形式	選択	52.6	53.5
	短答	52.2	51.2
	記述	10.6	14.6

★正答率度数分布



成果が見られた問題

2 (3) 正答率 46.5% (全国値 37.7%)
分数を含む多項式の計算ができる。

課題が見られた問題

- 5 正答率 20.8% (全国値 24.3%)
与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。
- 1 3 (1) 正答率 83.1% (全国値 89.1%)
平行線と同位角、錯角の関係や三角形の内角、外角の性質について理解し、角の大きさを求めることができる。
- 1 6 (2) 正答率 11.2% (全国値 15.4%)
連立方程式を解く過程を振り返り、事象に即して解釈し、数学的に説明することができる。

中学校第2学年 数学

継続して課題となった問題

- 5 (本県 20.8%)
与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式すること
に課題が見られます。
- ※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答例】

$$\begin{cases} x+y=34 \\ 200x+300y=8000 \end{cases}$$
 (完答)

【誤答】
・正答以外の解答(県 51.1%)

【無答率】(県 28.1%)

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

- ・問題を解決するために、着目する必要がある数量の関係を見いだすまでに至っていない。
- ・ $x+y=34$ はつくることができているが、もう1つの式をつくるまでに至っていない。

改善状況の確認

- ◆関連する類似問題での確認
- ・R5「くまナビ評価問題」(中学校数学「連立方程式」)
- ・H30全学調: 中学校3年「数学A」3(4)

～こんな子供の姿へ～

文章題や表から数量の関係を捉え、特定の2つの変数の関係に着目して連立方程式をつくり、問題解決に生かそうとしている子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 連立二元一次方程式(A(2)イ(ア)(イ))
〈東京書籍2年:連立方程式(6月)〉
〈啓林館2年:連立方程式(6月)〉
〈大日本図書2年:連立方程式(6月)〉

◆誤答から考えられる授業

- ①問題の中の相等関係にある数量を子供が見いだす活動が十分ではない授業
- ②どの数量の関係に着目してつくられた方程式なのかなどの、式の意味を問うたり、解決過程を振り返ったりする活動が十分ではない授業

☆こんな授業へ

- 問題の中から相等関係にある数量を見いだして、連立二元一次方程式を活用して問題を解決したり、その過程を説明したりする活動を取り入れた授業

【例えば、こんな授業場面において】

例) ◆誤答から考えられる授業①②に関して
→連立方程式を立式して、問題を解決する学習場面において、片方の式が表す数量の関係を問うた後に、もう片方の式について考える。

$$\begin{cases} x+y=27 & \dots\text{①} \\ \text{ } & \dots\text{②} \end{cases}$$

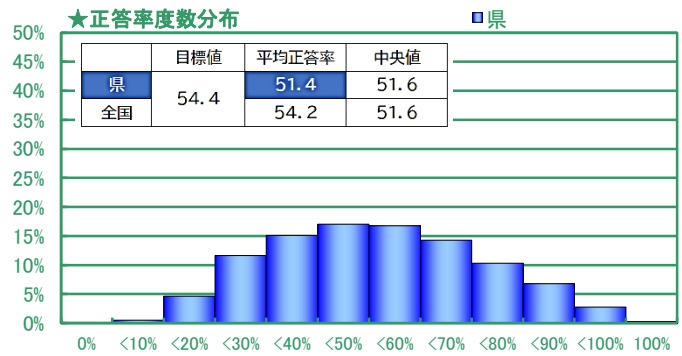
T: ①の式はどの数量の関係を表していますか。(※意味を問う)
C1: 道のりの関係かな?
C2: いや、時間の関係を表していると思うよ。
T: どうして、そう思うのですか。(※理由を問う)
C2: xは歩いた時間、yは走った時間を表していて、その和がかかった時間全体の27を表しているからです。
C1: そういうことか! じゃあ、②の式は道のりか速さの関係からつくることができるのかな?
T: 確かに①の式は時間の関係を表していますね。
では、②の式は道のりや速さの関係からつくることができるか確かめてみましょう。

★式がどの数量の関係を表したもののなにかを問うことで、着目すべき数量や、相等関係にある数量の関係を子供が見いだすことにつながります。



中学校第1学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	51.4	54.2
	基礎	55.4	58.0
	活用	43.0	46.3
領域	聞くこと	61.1	63.9
	読むこと	51.2	53.9
	書くこと	42.8	46.2
観点	知識・技能	62.1	65.3
	思考・判断・表現	42.6	45.2
	主体的に学習に取り組む態度	34.0	37.0
解答形式	選択	59.2	61.6
	短答	35.6	41.8
	記述	38.1	40.0



成果が見られた問題

3 (3) 正答率 96.5% (全国値 95.9%)
絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人物の紹介)

課題が見られた問題

- 8 (1) 正答率 29.1% (全国値 37.9%)
文の語順を理解し、正確に書いている。(命令文)
- 8 (2) 正答率 43.6% (全国値 50.7%)
文の語順を理解し、正確に書いている。(主語が3人称単数の一般動詞の疑問文)

中学校第1学年 英語

継続して課題となった問題

- 8(1) (本県 29.1%)
 - ・文構造や文法事項を正しく用いて、正しい語順で文を構成すること
 - ・一般動詞を用いた文や命令文の形・意味・用法を理解し、正しく表現すること
 に課題が見られます。
- ※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答】(県 29.1%)

・Practice the piano every weekend(.)

【考えられる誤答】(県 64.9%)

・The piano practice every weekend(.)

・Every weekend the piano practice(.) など

【無答率】(県 6.0%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

基本的な文の語順を理解できていない。一般動詞を用いた文や命令文の形・意味・用法を理解し、それらの知識及び技能を自ら活用して表現するまで至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

・R3県学調: 中学1年8(2)

・R2県学調: 中学1年8(2)

～こんな子供の姿～

一般動詞の基本的な用法等を理解した上で、目的や場面、状況などに応じて、正確に表現している子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○話すこと ○書くこと

◆誤答から考えられる授業

・一般動詞や命令文の用法等について、基礎的・基本的事項の定着までの手立てが不十分で、意味のある文脈の中で、それらを活用する指導まではできていない授業

☆こんな授業へ

- 実際のコミュニケーションにおいて、知識及び技能を活用させる中で、文脈にふさわしい文の形式や時制を考えさせる、主語に着目させる、日本語との語順の違いを意識させるなど、自ら表現した英語を言語面からも振り返る授業
- Small Talkや言語活動において、生徒の発話内容や筆記内容から、中間指導(特に言語面)を的確に行い、生徒ができるようになるまで意図的・継続的に使わせて定着を図る授業

【例えば、こんな授業場面において】

(帯活動で)身近な話題について、Small Talkと中間指導を通して、語句や表現等を正しく理解し活用できるようにする。

①Small Talk

②中間指導(定着まで)

③Small Talk

④中間指導(定着まで)

⑤Writing(※)

②④中間指導における指導

★間違えやすい箇所は、全体で意図的に継続して、徹底して指導する！
(指導の例)

- 間違えやすい語句や表現は、ICTを活用して繰り返すなど確実に言えるまで指導する
- 文法導入時の説明スライドを再度提示するなど、使用教材等を繰り返し活用する
- 教科書で既習単元の該当箇所を確認させる

※基礎的・基本的事項の習得のための

パターンプラクティスも大事！

★個々ができるようになったか見届けまで

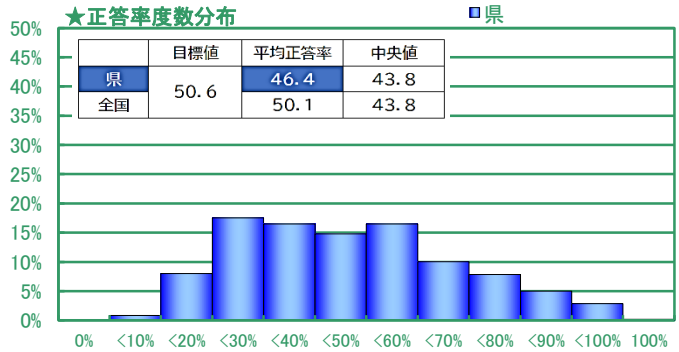
③Small Talkにおける指導

★中間指導で指導したことを生かして、ペアや課題を替えながら再度Small Talkに取り組みませる！

※Small Talkの終わりや家庭学習等において、言えるようになったこと(ポイントとなる文のみでもOK)をWritingで可視化することで、生徒はおさえるべきポイントを自覚しやすくなる

中学校第2学年・英語の観点別正答率（詳細）

分類	区分	平均正答率	
		県	全国
基礎・活用	教科全体	46.4	50.1
	基礎	52.0	55.5
	活用	35.6	39.8
領域	聞くこと	53.8	58.5
	読むこと	50.4	54.4
	書くこと	32.7	34.9
観点	知識・技能	54.8	58.1
	思考・判断・表現	37.9	42.1
	主体的に学習に取り組む態度	33.4	36.7
解答形式	選択	54.1	58.4
	短答	28.6	29.9
	記述	33.4	36.7



成果が見られた問題

3 (2) 正答率 96.5% (全国値 95.9%)
絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人の様子と時)

課題が見られた問題

10 (1) 正答率 9.8% (全国値 18.0%)
対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whenを使って時をたずねる)

11 正答率 34.5% (全国値 43.9%)
自由な時間に好きなことについて、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝わるように書いている。

中学校第2学年 英語

継続して課題となった問題

- 10(1) (本県 9.8%)
 - ・対話の流れを理解すること
 - ・疑問詞を用いた英文の形・意味・用法を理解し、正しく表現すること
 に課題が見られます。

※著作権の関係により掲載しておりません。
各学校で問題を御確認ください。

【正答例】
・When will she come(?)

【考えられる誤答】(県 48.7%)
・Will she come in the evening(?)
・What time she will come(?) など

【無答率】(県 41.5%) ※無答率が高いことも、本県の課題

誤答例から考えられる 授業での子供の姿

対話の内容や文脈などを理解できていない。
また、疑問詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらの知識及び技能を自ら活用して表現するまで至っていない。

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H30県学調: 中学2年8(1)
- ・H29県学調: 中学2年7(1)

～こんな子供の姿～

疑問詞を用いた基本的な用法等を理解した上で、目的や場面、状況などに応じて、正確に表現している子供

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○話すこと ○書くこと

◆誤答から考えられる授業

・疑問詞について、形・意味の理解に特化した指導に終始し、意味のある文脈の中で実際にどのように活用するのかについての指導が不足している授業

☆こんな授業へ

- 目的や場面、状況などに応じて、疑問詞(疑問文)を実際のコミュニケーションの中で活用させたり、適切なやり取りとなっているか自己の発話や筆記を振り返ったりする授業
- 言語活動において、中間指導(特に言語面)を充実させる。
例えば、全体で生徒の誤りのある英語表現等を取り上げ、疑問詞(疑問文)への理解を促し、定着を図る指導を徹底するとともに、更に別の場面等においても活用させる授業

【例えば、こんな授業場面において】

(例)教科書を活用した疑問文(疑問詞)に着目した指導

【教科書のダイアログを活用】

※教科書の既習単元の本文(ダイアログ)を活用して、疑問詞を含む疑問文にマスキングする。そこにかかわしい疑問文を生徒に考えさせる

教科書本文は、目的や場面、状況の設定がある

意味のある文脈の中で考えることができる

指導したい言語材料に焦点化することができる

文脈に応じて多様な答えが考えられる場合もあり
思考を深めることができる



■教科書の中で扱われる疑問文は学年を追うごとに、be動詞、一般動詞、助動詞、疑問詞等と難易度が高くなる一方で、疑問文の表出頻度は減少していく傾向にある。

→「言語使用の正確さ」の定着には時間がかかることから、
意図的に継続した疑問文に着目させる指導が必要!

■教科書本文等を活用して疑問文の用法等の定着を図ったり、Small Talk などにおいて疑問文を扱う場面に授業の中で意図的に設定し、疑問文を用いて話したり書いたりする活動を3年間継続して意図的に指導する!

校内研修シート①「課題となった問題の確認とその克服に向けた授業改善へ」

- ◇各学校での分析(正答率等)を踏まえ、課題となった問題を確認し、課題克服に向けて「授業改善のポイント」等を書き入れましょう。
- ◇本シートは、課題克服ドリル等と併せて活用(ステップシート^{【※】}のステップ3及び4の取組)し、課題の克服に向けた授業改善に役立てましょう。※令和5年12月22日付け教義第797号(別紙1)を参照

課題となった問題(継続した課題でも可)	授業改善のポイント
<p>●学年、教科、問題番号(正答率 %)</p> <p>【誤答例】 ・ (%) 【無答率】 (%)</p>	<p>○関連する単元・内容等(指導事項)の実施時期</p> <p>○克服に向けた具体的な指導について (いつ、どのように指導)</p>
誤答例から考えられる授業での子供の姿	改善状況の確認
	<p>◆関連する類似問題での確認</p> <p>～こんな子供の姿へ～</p>

【例】校内研修シート①「課題となった問題の確認とその克服に向けた授業改善へ」

- ◇各学校での分析(正答率等)を踏まえ、課題となった問題を確認し、課題克服に向けて「授業改善のポイント」等を書き入れましょう。
- ◇本シートは、課題克服ドリル等と併せて活用(ステップシート^{【※】}のステップ3及び4の取組)し、課題の克服に向けた授業改善に役立てましょう。※令和5年12月22日付け教義第797号(別紙1)を参照

課題となった問題(継続した課題でも可)	授業改善のポイント
<p>●小学校3年 国語 問題番号5(1) (35.9%)</p> <p>・ 説明文の内容を読み取る際に、叙述を基に文章の内容を捉えること</p> <p>※著作権の関係により掲載しておりません。 各学校で問題を御確認ください。</p> <p>【誤答】 ・ 「1」を選択 (県 6.9%) ・ 「3」を選択 (県 50.8%) ・ 「4」を選択 (県 5.6%) ・ それ以外の誤答 (県 0.1%) 【無答率】 (県 0.7%)</p>	<p>○関連する単元・内容等(指導事項)の実施時期</p> <p>・ 説明的な文章を扱う単元(3・4年C(1)ア) 〈光村図書3年上:文様 こまを楽しむ(5月)〉 〈東京書籍3年上:自然のかくし絵(4～5月)〉 〈東京書籍2年下:あなのやくわり(1月)〉</p> <p>○克服に向けた具体的な指導(授業)について</p> <p>・ 筆者の考えが文章の中で読者にどのように投げかけられ、説明されているのかを整理した上で、感想を伝え合う授業</p> <p>・ 主語や述語など文の構成要素について、説明文の内容理解と関係付けながら確認している授業</p>
誤答例から考えられる授業での子供の姿	改善状況の確認
<p>段落相互の内容のつながりに着目しないまま、前後の文だけで文の意味を考えようとしている。</p>	<p>◆関連する類似問題での確認</p> <p>・ R4県学調:小学3年5(1) ～こんな子供の姿へ～ 段落相互の関係に着目して、筆者の考えとそれを支える理由や事例を整理しながら説明文を読む子供</p>

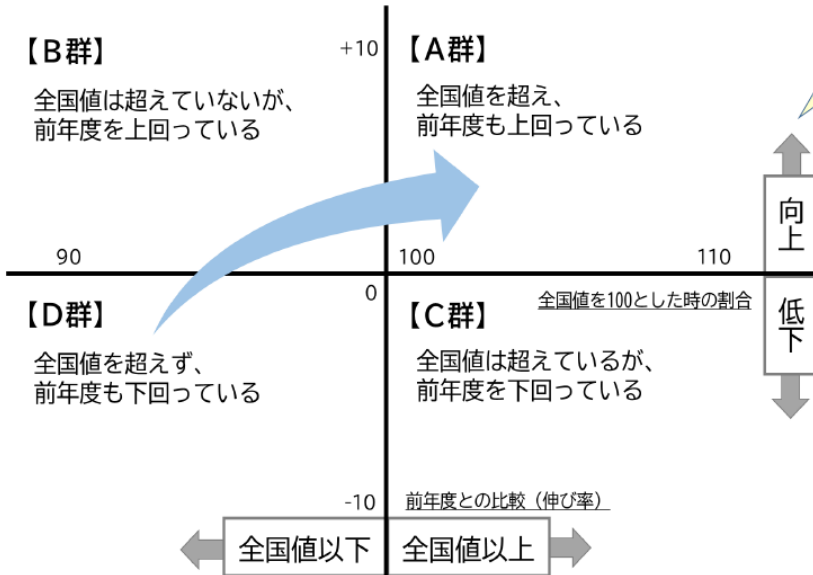
校内研修シート②「伸び」を分析する

◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び」を抽出し、今後の取組を話し合しましょう。

同一集団の伸びに着目した分類

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

① 自校の位置を把握しましょう。

群

※令和4年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和5年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

③ 今後の取組を話し合しましょう。

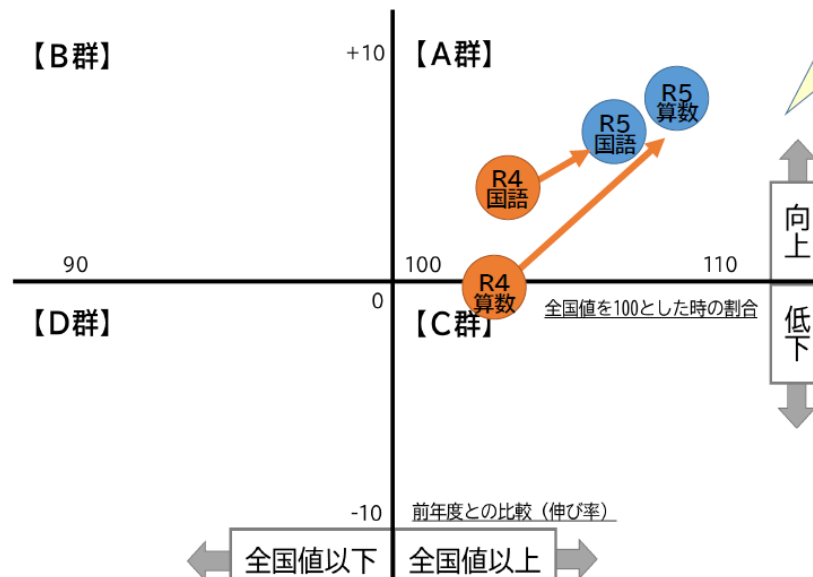
〔例〕 校内研修シート②「伸び」を分析する

◇各学校でも自校の4分類を踏まえた「伸び」を抽出し、今後の取組を話し合しましょう。

同一集団の伸びに着目した分類

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

① 自校の位置を把握しましょう。

小5国語…A群、小5算数…A群

*学校全体だけでなく、学年・クラス・個人単位でも分析することができます。

※令和4年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和5年度県学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

② 「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

- ・国語は、昨年度より「思・判・表」の領域が向上し、「知・技」の領域が昨年度より下降している。
- ・算数は、「数と計算」の平均正答率が昨年度より向上している。

*正答率の低い問題の傾向や誤答の傾向、昨年度の傾向との比較等、様々な視点から要因を分析しましょう。

③ 今後の取組を話し合しましょう。

- ・「思・判・表」の指導を行う際に、関連する「知・技」を明確にした指導を行う。
- ・単元終了後においても、計算技能の定着確認の場を設定する。

参考

※次年度も含め、本シートを校内研修、学年会、教科部会等、様々な場面で活用し、問題分析を通じた授業改善に取り組みましょう。

校内研修シート③ 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析し、授業改善の方策を考えてみましょう。

<作成日>	<活用場面>	<状況の確認>
-------	--------	---------

取り出した問題：学年() 教科() 問題番号()
 ※平均正答率：自校()%、県()% 目標値：()%

① 「題材(問題場面等)」や「配列(問題の構成や順序)」、「問い方(条件設定や発問)」の工夫について、気づいたことを話し合しましょう。

○ 今後の授業改善に向けた方策(内容)をまとめましょう。

② 分析資料の解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

※研究授業等で、進捗状況を確認しましょう。

参考

※次年度も含め、本シートを校内研修、学年会、教科部会等、様々な場面で活用し、問題分析を通じた授業改善に取り組みましょう。

【例】校内研修シート③ 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を分析し、授業改善の方策を考えてみましょう。

<作成日> 令和6年5月15日(水)	<活用場面> 教科部会(数学)	<状況の確認> 10月の小研(教科別)での提案授業
-----------------------	--------------------	------------------------------

取り出した問題：学年(1年) 教科(数学) 問題番号(17)
 ※平均正答率：自校()%、県()% 目標値：()%

① 「題材(問題場面等)」や「配列(問題の構成や順序)」、「問い方(条件設定や発問)」の工夫について、気づいたことを話し合しましょう。

- ・生徒が身近に感じる生活場面を題材にしている。
- ・グラフから分かることを読み取りたくなるように、「お得である」理由を説明させる問い方をしている。

○ 今後の授業改善に向けた方策(内容)をまとめましょう。

- ・文章問題を取り扱う授業では、教師側から式や表などを与えるのではなく、問題場面から分かることを、生徒自身が言葉や表、グラフなどに表す活動を設定する。
- ・グラフの意味理解につなげるために、事象(具体)⇔グラフ(抽象)を往還する活動を取り入れ、グラフの読み取りができていないか確認する。

② 分析資料の解答類型等から、自校の子供たちのつまずきの状況を確認し、その要因を考えましょう。

- ・無答が多い。
→自分の考えを言葉や式、表、グラフなどを用いて表現する活動が不足している。
- ・グラフの読み取りができていない。
→グラフに表された直線がどのような事象を表したもののなのか、理解できていない。